

普及活動情勢報告（令和6年4月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

だいぶ、樹が低くなったね！（文旦剪定実習）～幡多地区営農改善協議会果樹部会～



3月21日、土佐清水市で、指導員の技術向上を目的に、土佐文旦の剪定講習会が開催され、JA・振興センターから各4名が参加しました。

農業改良普及課の果樹担当者が指導役となり、1～2名で1樹ずつ剪定を行いました。園地は3年前から剪定講習場所としており、当初は高かった樹も徐々に背が低くなってきました。野菜担当との兼任で、普段は果樹の剪定機会が少ない営農指導員からは、「年々剪定している樹が整っていくのを楽しみにしている」との声がありました。

当課は、生産者へ指導を行えるように、関係機関と共に果樹の栽培技術を向上させていきます。

宿毛文旦を盛り上げよう！ ～すくも文旦育成会総会～



3月25日、宿毛市役所会議室で、すくも文旦育成会の総会が開催され、生産者18名・関係機関4名が参加しました。

農業改良普及課からは、こはん症の発生状況や対策、今後の栽培管理、土壌改良材による生理障害対策、環境データ測定装置を活用した実証試験（かん水試験等）について情報提供しました。生産者からは「秋期のかん水が小玉果の解消になるがやね」、「土壌改良材を投入すると樹勢が回復した!」、「生産者同士の情報交換ができた」といった声がありました。

今後は、栽培技術向上と環境測定データの活用による「見える化」、データ共有のグループ化を推進していきます。

栽培技術を学ぼう！ ～第3回 若手キュウリ現地検討会～



3月28日、黒潮町浮鞭で第3回若手キュウリ現地検討会が開催され、生産者14名、関係機関3名が参加しました。

会では、現地のは場主から、耕種概要や栽培でのポイント・考え方などの説明があり、生産者らは、意見交換しながら栽培技術に関する情報を共有しました。

農業改良普及課からは、他産地視察の報告として、高収量農家実践する栽培管理技術について情報提供しました。

今後は、巡回指導を主とした栽培指導を実施し、黒潮町の若手キュウリ農家を支援していきます。

ラッキョウの出来具合はどうでしょう ～ラッキョウ試し掘り・販売会議～



4月10日に、土佐清水市、四万十市、黒潮町のほ場でラッキョウ試し掘り・JA 大方支所で販売会議が開催され、関係機関 20 名と管内生産者 10 名が参加しました。

今年度のラッキョウはやや小ぶりながら、球数が多くできていました。

農業改良普及課からは、ウイルス被害や赤枯病の対策、特に注意すべき病害について説明しました。農家間で「媒介昆虫に効果の高い薬剤はあるか」、「赤枯病の被害はいつ発生しているか」など活発な意見交換が行われていました。

当課は、ラッキョウの収量確保に必要な栽培技術の検討を継続し、産地の維持発展に努めていきます。

関係機関一丸となって！ ～集落営農・担い手支援チーム会～



4月上旬から中旬にかけて、管内6市町村の各担当者、JAと集落営農及び担い手の年間計画についてチーム会を行いました。

チーム会では、今年度計画している新規就農者ネットワーク協議会や集落営農法人連絡協議会等について、具体的な時期や内容を説明後、市町村の活動や支援体制等について確認しました。

農業改良普及課からは、集落営農の組織化や法人化、広域連携の状況や女性農業者確保に向けた取組等について情報提供し、協議を行いました。

当課は、今後も関係機関と連携し、集落営農の推進や担い手の確保・育成に取り組んでいきます。